

コラムを読み解く(中学・国語)

()中学校()年()組 氏名()

南風録
鹿児島県の茶畑を見た県外出身者が驚くことがある。茶樹の畝が「かまぼこ形」でなく「水平形」だからだ。県民になじみの風景は他産地とは異なるようだ▼鹿児島もかつてはかまぼこ形だった。一変させたのが、南九州市の松元機工が開発した乗用型の茶摘採機だ。緑色の茶畑を動き回る赤い大型機械である▼十数年前、創業者の故松元芳見さんに開発の苦労話を聞かせてもらった。1962年完成の初号機は不具合だらけ。改良を重ね、80年代には居眠り運転を心配する程の乗り心地となったという。「故障が少なく20年以上持つので、なかなか次が売れない」。当時82歳。体も口も達者だった▼2024年産の荒茶生産量で鹿児島県が静岡県を上回り、初の首位となった。初号機完成時に5倍以上あったライバルとの差が、ひっくり返った。日本一の称号は鹿児島県が力を入れる茶の輸出にも追い風になるはずだ▼高齢化や茶価低迷で生産量が減る一方の静岡県に対し、鹿児島は機械化や大型化で維持拡大を図ってきた。1農家当たりの栽培面積が群を抜いているのも摘採機が存在があってこそといえる▼松元さんは「うちの仕事、もうちょつと評価されてもいいと思っとるんですよ」と漏らしていた。スマート農業がうたわれるはるか前から、人海戦術だった茶摘みを省力化、低コスト化した功績は大きい。みんな感謝していますよ。

2025年2月21日付1面

【問1】「県民になじみの風景は他産地とは異なる」について、説明しましょう。

【問2】鹿児島県の茶樹の畝の形が変わったのはなぜですか。

【問3】「初号機完成時に5倍以上あったライバルとの差が、ひっくり返った」を具体的に説明しましょう。

- ・初号機完成時とはいつですか。()年
- ・ライバルとは誰(どこ)ですか。()
- ・ひっくり返ったものは何ですか。()

【問4】筆者の述べる松元機工の功績を書きましょう。

【考えを書きましょう】スマート農業とは、ロボットや人工知能(AI)などの最新技術を活用して、生産システムと運営を最適化する農業のことです。現代の農業の問題点や解決策について、あなたの考えを書きましょう。

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

驚(おどろ)く

畝(うね)＝畑で、作物を植えつけるために、土を細長く盛り上げた所

摘採(てき・さい)＝植物などを摘(つ)み取る作業

居眠(い・ねむ)り

歳(さい)

達者(たっ・しゃ)＝じょうぶなようす

荒茶(あら・ちゃ)＝摘んだ葉を蒸(む)してもみ、乾燥(かん・そう)させたままの茶

称号(しょう・ごう)＝名誉(めい・よ)ある呼び名

高齢化(こう・れい・か)

維持(い・じ)

栽培(さい・ばい)

群(ぐん)を抜(ぬ)いて＝たくさんの中から、ぬけ出すぐれていること

漏(も)らし

人海戦術(じん・かい・せん・じゅつ)＝(ここでは)多数の人員を次々に繰(く)り出すことによって、物事を成し遂(と)げようとするやり方

